



インターネット経由の新たな自社システム 接続方式

2019年8月8日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

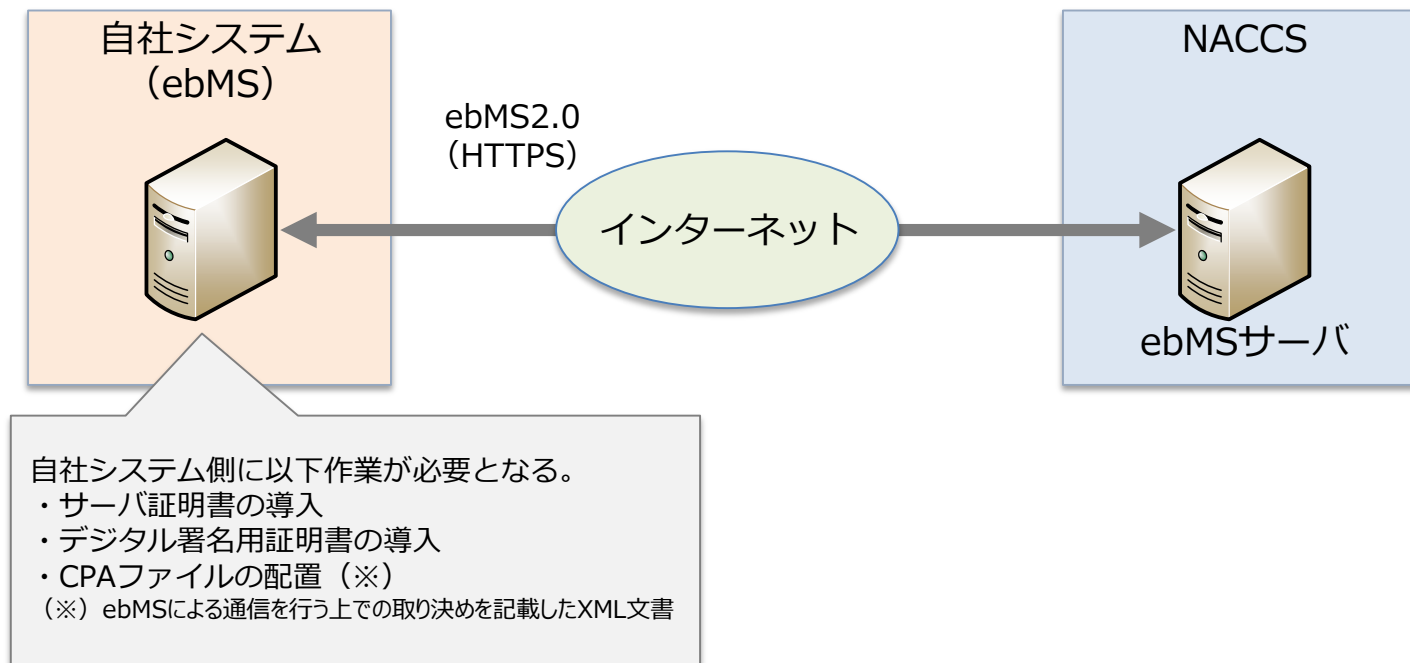
1. インターネット経由の新たな自社システム接続方式

第7次NACCSにおいては、柔軟なインターネット経由による自社システムの接続方式について、以下の通り検討する。

区分	概要	備考
1. 個別検討事項	<ul style="list-style-type: none">• ebMS処理方式の廃止による利用者への影響• netNACCSの仕様（API）公開による接続方法	
2. 現行仕様	<ul style="list-style-type: none">• 第6次NACCSでは、インターネット経由で自社システムを接続する場合、ebMS処理方式のみとなっている。	
3. 見直しの経緯 (利用者の要望等)	<ul style="list-style-type: none">• ebMS処理方式では、証明書の更新作業が毎年発生するため、利用者 とNACCSセンター間で調整及び作業が発生しており、負担となっ ている。• インターネットを経由した自社システムの接続方式は、将来的に今 回検討する新たな接続方式に集約していくこととし、ebMS処理方式 については、廃止を検討する。• 専用回線を使用せず、インターネットを経由して自社システムと NACCSを接続したいという利用者が今後増えてくることが予想され る。	
4. 次期仕様	<ul style="list-style-type: none">• ebMS処理方式を廃止し、netNACCSの仕様（API）を公開する。	
5. その他	<ul style="list-style-type: none">• 既存ebMS処理方式を利用されている自社システムについて、ebMS 処理方式の廃止に伴う利用者への影響を整理する必要がある。	

第6次NACCSにおけるebMS処理方式の接続構成は、以下の通りである。
また現在のebMS処理方式は一部業務のみしか実施できない。

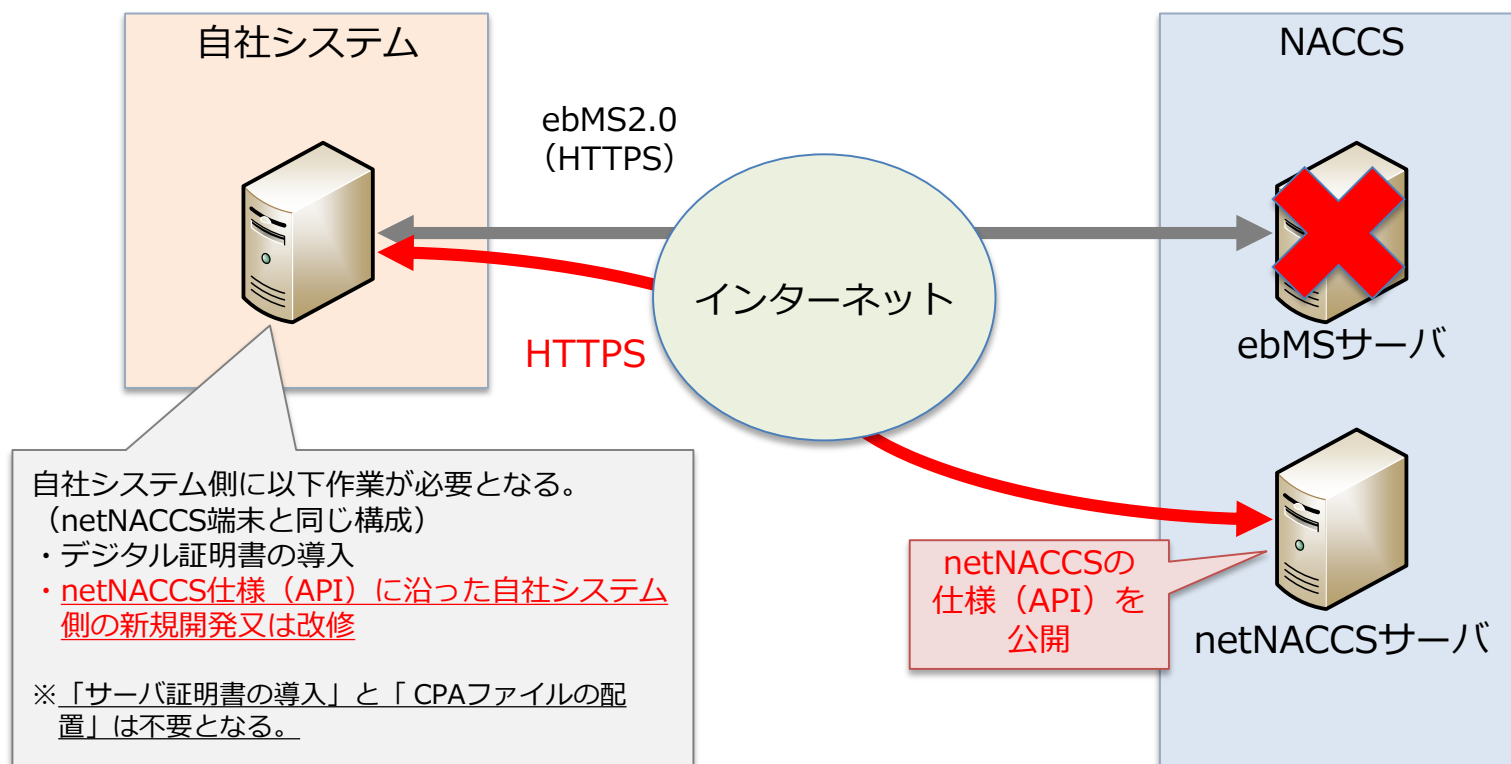
■現在のebMS処理方式の接続構成イメージ



3. 第7次NACCSにおける構成イメージ

第7次NACCSで検討するインターネット経由の新たな自社システム接続方式イメージは、以下の通りである。またebMS処理方式については、廃止することを検討したい。

■ 新たなインターネット経由した自社システム接続方式イメージ

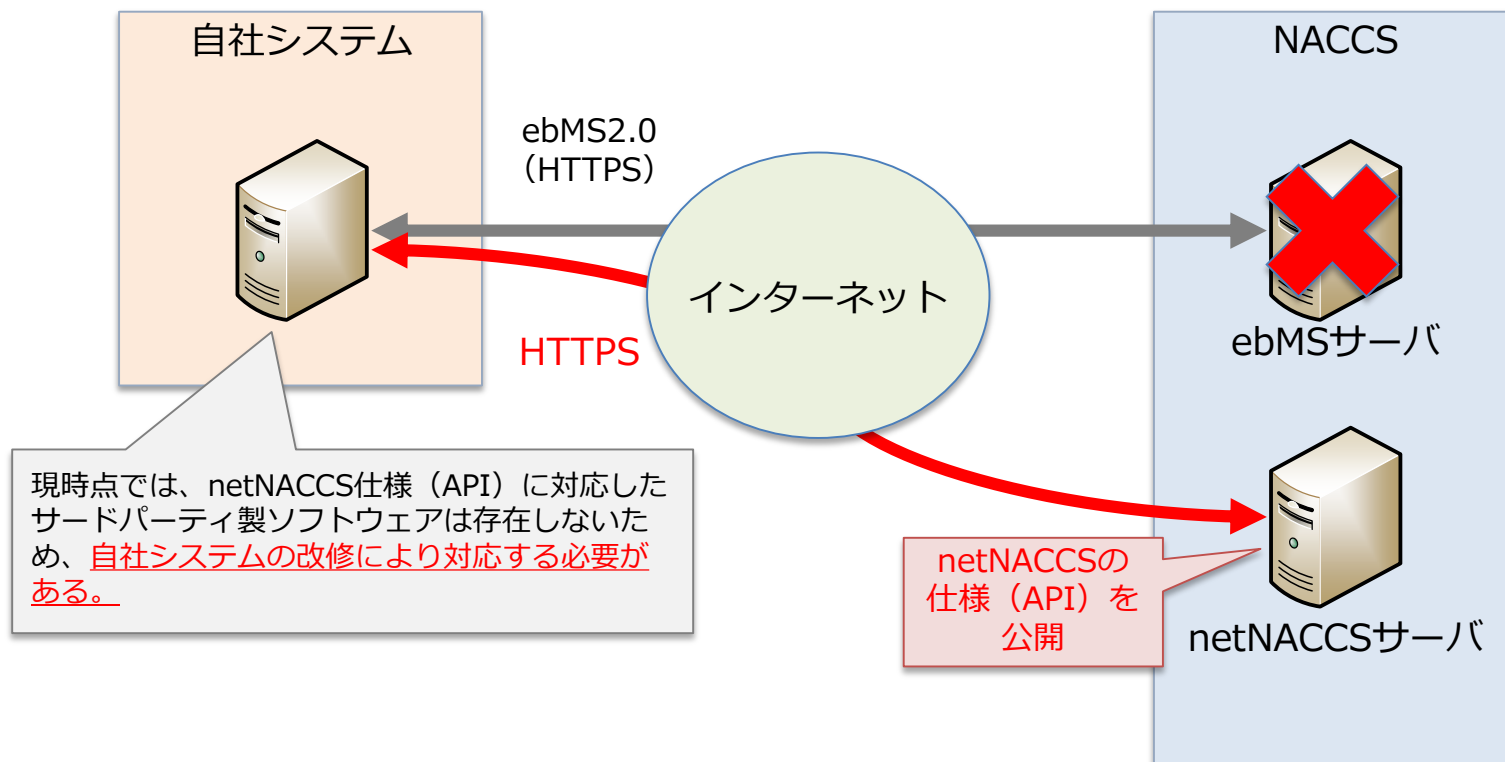


4. ebMS処理方式利用者の自社システムへの影響

ebMS処理方式を廃止する場合、該当処理方式利用の自社システムへの影響は、以下の通りである。

現在サードパーティ製のソフトウェアを利用してebMS接続されている場合、netNACCSの仕様（API）に沿った自社システム側の改修が必要となる。

■ ebMS処理方式利用の自社システムへの影響



ebMS処理方式とnetNACCSの主な違いは以下の通りである。

項目	ebMS処理方式	netNACCS
帳票電文の受信方法	NACCSから自社システムへ電文の送信を行う。	自社システムからNACCSに対して電文の受信を行う。
実施できる対象業務	一部業務のみを提供 (81業務が対象※)	全業務を提供 (ただし、下記XML形式対象業務を除く)
XML形式が使用できる対象業務	<ul style="list-style-type: none">・ EIR (S/I情報登録)・ IVA (インボイス・パッキングリスト情報登録)・ SIR (船積指図書 (S/I) 情報登録)	左記のXML業務は、現在のnetNACCSでは対応していない。そのため、ebMS処理方式を廃止する場合には、左記のXML業務をnetNACCSで対応できるようにする想定。

※EDI仕様書 付録6に記載されているebMS処理方式の対象業務